

2023年度海外認定研修 報告書 ～台湾図書館研修～

大正大学附属図書館 林 恵理

目次

1. 研修概要
2. 見学施設について（抜粋）
3. 所感・まとめ
4. 謝辞
5. 参考資料、参考ホームページ



画像1：国立政治大学達賢図書館

1. 研修概要

2023年12月6日～9日にかけて、図書館総合展運営委員会および丸善雄松堂株式会社の共同企画である海外図書館研修に参加した。4年ぶりの開催が決まった今回の研修地は、台湾である。各訪問先の図書館職員と情報交換をおこなうなど、台湾の図書館事情について学ぶことのできる、大変貴重な機会であった。以下、概要である。

表1：研修概要

研修名称	World Library Tour 台湾図書館研修 2023
研修期間	2023年12月6日～9日（3泊4日）
参加者	大正大学附属図書館ほか、約30名
訪問先	台湾・台北市、新北市、桃園市 <ul style="list-style-type: none"> • 国立故宮博物院 • 台北市立図書館北投分館 • 国立台湾図書館（修復部門） • 国家発展委員会档案管理局（アーカイブ部門） • 中原大学図書館 • 桃園市立図書館新総館 • 蔣経国総統図書館 • 国立政治大学達賢図書館 • 国立台湾大学図書館 • 国家鉄道博物館準備室 • 誠品生活信義店



画像2：国家鉄道博物館準備室

研修に参加するにあたり、渡航前にテーマを2つ設定し、報告書にまとめることとした。

- ① イベントや館内表示など、掲示物のデザインはどのようなものがあるか
- ② 台湾における「図書館」の位置づけとは何か

特に①は、日頃より台湾のデザイン・イラストに興味を持っていたため、各訪問先でイベントなどの掲示物を記録したいと考えていた。本学でも新棟が完成した2020年より、多くの方に図書館へ足を運んでもらうべく、様々なイベントを企画し、実施に併せて掲示物も作成してきた(画像3参照)。具体的な実施内容については、今年度の私立大学図書館協会研究大会での事例報告や、図書館総合展のブースで説明させていただく機会があったので、ここでは割愛する。訪問先のホームページを拝見すると、非常に魅力的なデザインで作成している図書館が多く、たとえ言語がわからなくても、そのデザインで実施内容をイメージすることができた。効果的な広報展開のヒントを探り、少しでも自館に活かせる方法などを見つきたいと思い、上記のテーマ設定に至った。



画像3：本学で作成したイベントチラシ（一例）

2. 見学施設について（抜粋）

この章では今回訪問した施設のうち、いくつか抜粋して報告していく。

・台北市立図書館北投分館

2006年に開館した台北市立図書館の分館である。市内には本館のほか、分館が40館近くあるが、分館それぞれに蔵書テーマが設けられている。北投分館のテーマは「生態保育」である。北投区は他に園芸、舞台美術、体育、動物などが設定されているが、どのようにこれらのテーマを設けているのか、非常に興味深い。



画像4：台北市立図書館北投分館 外観



画像5：写真撮影についての掲示

館内は地上2階、地下1階の3階建て。当日は小雨が降るあいにくの天気だったが、温泉街に佇む木造建築は非常に趣があった。

手続きをすれば誰でも写真撮影が可能で、撮影に関するルールについて、画像5のような掲示があった。「世界で最も美しい図書館」にも多く選ばれていることもあり、海外観光客の見学も多いようだ。

• 国立台湾図書館

前身は日本統治時代の「台湾総督府図書館」、台湾でも歴史ある図書館である。2013年に行政院の命を受け、現在の名称に改名された。学術研究の機能と年齢別サービスを強化するため、2007年に設立された「台湾学研究センター」をはじめ「台湾図書病院(本の病院)」と呼ばれる資料の修復施設が設立。「高齢者専用資源エリア」「青少年読書エリア」などがあるが、今回は修復部門を中心に見学させていただいた。



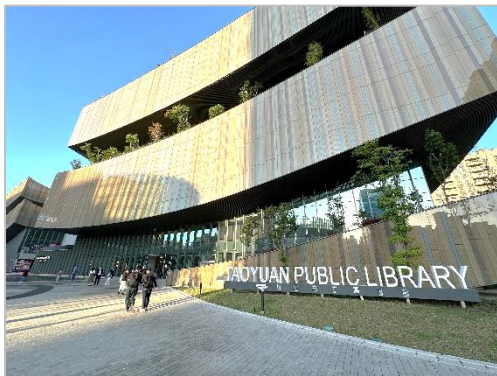
画像6：国立台湾図書館 外観

「本の病院」では、他館から依頼を受けて修復が完了したばかりの資料を実際に触らせてもらった。こうした修復施設は台湾ではここしかないようで、他館で所蔵している資料の修理を請け負う場合もあるそうだ。資料を丁寧に分解しつつ欠片を集める人、裏打ちを施す人…など、作業工程ごとに担当者が分かれており、皆誇りをもって作業にあたっている姿が印象的だった。



画像7：修復された資料

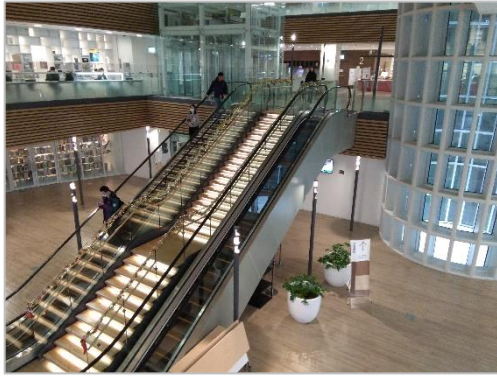
• 桃園市立図書館新総館



画像8：桃園市立図書館新総館 外観

2022年に開館した桃園市立図書館の新本館。地上8階、地下2階の10階建て。親子、青少年、シニアなど、各フロアを利用者層で区分して資料が配架されており、上階へ行くほどに静寂スペースと位置づけている。敷地内には書店やカフェ、映画館も併設されている。また、桃園市内は提携したコンビニエンスストアで本の貸出・返却ができ、将来的に対象範囲を拡充させる計画があるそうだ。

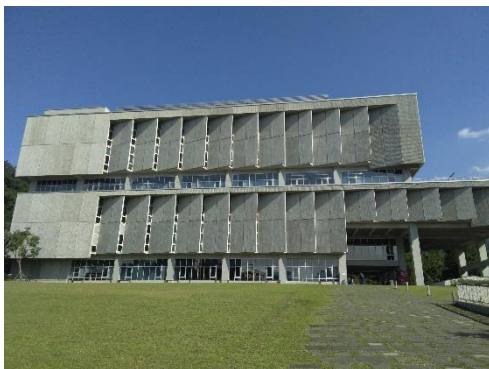
2024年1月22日



画像9：桃園市立図書館新総館 内観

見学途中、「多くの来館者に来てもらうために工夫している点は何か」と質問したところ、「親子コーナーを充実させる。関連イベントを企画する」と回答いただいた。地域性もあるのか、この図書館は親子での利用者が非常に多いそうだ（月10,000～20,000人）。桃園市の人口は2023年12月現在、2,310,000人）。イベントを通じ、図書館へ足を運ぶ機会を提供するように心掛けているとのこと。

・ 国立政治大学達賢図書館



画像10：国立政治大学達賢図書館 外観

1927年に設立された国立政治大学は、文学、理学、法学、社会科学など11学部がある（2022年現在）。指南キャンパスに位置する達賢図書館は、地上8階、地下2階の10階建て。

2020年に開館された館内は、3つのゾーン（グループゾーン・クワイエットゾーン・サイレントゾーン）に分かれており、上層階に行くほど、個人で集中するための閲覧席や研究スペースがある。



画像11：国立政治大学達賢図書館 内観

吹き抜けからの眺めは壮観で、どこを切り取っても美術館のようなうっとりする空間である。「台湾で最も美しい大学図書館トップ10」にも選ばれている。フロアごとにテーマカラーが設定されており、壁面などのデザインに用いられている。



画像12：部屋ごとに企業名が表記される

特徴的だったのは、この建物は卒業生らが建築、寄付したという点である。建物入り口には寄付された企業や個人名を記すモニュメントがあった。また、ミーティングルームや研究室にはネーミングライツ契約があり、1部屋100万元でスポンサーになれるそうだ。近年、国内の大学でもネーミングライツ契約を結ぶ大学は多い。こうした流れは、国内外問わず、今後さらに加速するのではないだろうか。

3. 所感・まとめ

台湾の治安は比較的安定していたが、2024年1月13日に総統選挙が行われることもあり、非常に緊迫感のあるタイミングでの渡航だった。日本でも国民党と民衆党が連合破談したというニュースが報道され、注目が集まっていた。研修参加者向けの事前説明会では、トラブルになりかねないので、現地では「選挙」「投票」などと発言しないように、と共有がなされた。コロナ禍を経て4年ぶりの海外研修だったことに加え、このような状況下だったので非常に緊張していたが、現地の方々の親切さに数多く助けていただいた。

既述したとおり、私は台湾の図書館における掲示物を対象に、どのような告知方法・展開をされているかを学びたいと思い、本研修の参加を決めた。今回訪問した図書館は、比較的新しく開館したところが多く、いかに多くの来館者に来ていただくか、図書館を利用してもらうか、を重要視した広報展開をしていた。文字フォントのポップさ、色調の豊富さ、子どもからお年寄り、外国人にも理解しやすいイラストを用いたデザインにするなど、随所に工夫が見られた。日本でも多く用いられる「いらすとや」のイラストを用いた掲示物もあり、海外でも使用されていた驚きと同時に、非常に親近感が湧いた（画像13、14参照）。



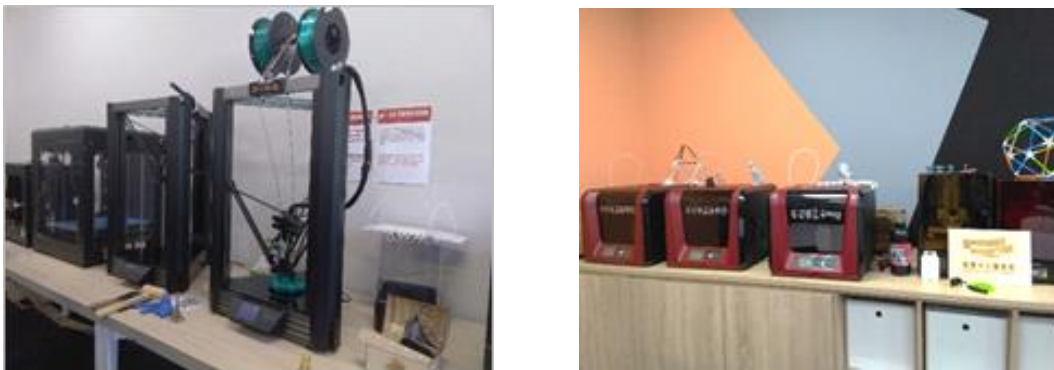
画像13：訪問先各地で撮影した掲示物①（一部）



画像 14：訪問先各地で撮影した掲示物②（一部）

こうしたデザインについて、ある図書館のスタッフは「アルフォンス・ミュシャのようなデザインにしたい」と思い、AI イラストで作成した」と説明してくれた。本学が作成する場合は、過去の掲示物のデザインやフリーサイトのテンプレートなどを参考にしていたが、AI 技術を用いたことはほとんどなかった。こうした点も、台湾デザインの豊富さの一因かもしれない。本報告書に掲載した掲示デザインはほんの一例だが、今回の訪問で得られた情報は課内のスタッフにも共有し、より効果的な掲示物を作成していきたい。

また、3D プリンターなどの機材も複数の図書館で設置されていた点が印象的だった。台湾では、生成 AI や 3D プリンターなどの新しい技術を身につけ、いかに活用していくかという点が、日本よりも先を進んでいる印象を受けた。



画像 15：3D プリンターを設置されている図書館もあった

台湾研修の中で印象的だったやり取りは、「今の時点で、図書除籍についての計画などはあるか？」と研修参加者からの質問に対し、現地スタッフは「日本では本を捨てるのか？」と驚かれた点である。個人的かつ肌感覚ではあるが、台湾人にとって本や資料が「価値のあるもの、大切なもの」という認識が、日本よりもより強い印象を受けた。「本の病院」と呼ばれる専門機関があることも驚いたが、台湾では書籍や公文書などの資料をいかに利用者に還元

するか、を重要視していた。本学の場合で考えてみても、スペースなどの都合で、どうしても蔵書の見直しを検討せざるを得ない。新刊本を受け入れようとすればするほど、除籍などの問題も避けて通れないのが実情である。日本国内では年間 66,885 点（2022 年）もの書籍が発刊されるが、台湾はどうかだろうか。今回はデザインを中心に検証してみたが、増え続けていく蔵書の保管方法やデジタルアーカイブとして管理する資料、特に原本の扱いなどの観点からも、日台を比較してみたいと感じた。

台湾における「図書館」の位置づけという観点で考えてみると、館内をフロアごとに利用者層を想定して配架を工夫している点、地域イベントの広報や会場提供を図書館が担うなどの「情報拠点」としての図書館の役割は、日本国内でも同様に展開されており、国を越えての「共通点」であることが伺い知れた。少し話は逸れるが、実は帰国してから報告書を書き上げるまでの間に、北海道札幌市の札幌市民交流プラザ（札幌市図書・情報館）、宮城県仙台市のせんだいメディアテーク（仙台市民図書館）、岡山県瀬戸内市の瀬戸内市民図書館もみわ広場の3館に行く機会があった。どの館も非常に地域性溢れる展示やイベントを行っており、先述した「共通点」の裏付けであることを各地で実感した。

本学も新棟が完成、開館して以来「人々が集い、学び合う場」を目指し、様々なイベントを企画立案、実施してきた。これらの考え方が海を越えても共通であると思えた点は、非常に自信を持つことができた。大学図書館として、地域の方が利用できる空間として、どのような知識やスキルを持つべきか。今回、新たな技術の活用についても考えさせられたが、今後も多くの図書館事例を参考にしながら、これからの在り方を常に考えていかなければと改めて感じた。

4. 謝辞

この度、海外認定研修という貴重な機会に参加させていただくにあたり、多くの方のご支援とご協力を賜りました。私立大学図書館協会 国際図書館協力委員会、図書館総合展運営委員会、丸善雄松堂株式会社、株式会社アイ・ダヴリュール・エイ・ツアー東京支店のみなさまには、出発前よりご指導いただき大変お世話になりました。ありがとうございました。

また各訪問大学・訪問図書館のみなさま、ご一緒いただきました研修参加者のみなさまにも各地で数多く助けていただきました。今回のご縁を大切に、今後もあらゆる場面で情報交換できると嬉しく思います。

そして、今回快く送り出してくださった大正大学附属図書館のみなさま、参加決断にあたり背中を押してくれた家族、台湾の美味しいお店やお土産屋さんを教えてくれた大切な友人たち、帰国後の各図書館へ足を運ぶきっかけをくれた T 氏にも感謝しています。改めて、この場をお借りして心より御礼申し上げます。



画像 16：誠品生活信義店の前で

5. 参考文献、参考ホームページ

- ・台湾図書館研修 2023 基礎資料（事前説明会資料）。
- ・公益社団法人全国出版協会出版科学研究所，「出版指標年報 2023 年版」，公益社団法人全国出版協会出版科学研究所，2023，p.140-141.
- ・大正大学附属図書館，「『学び』と『集い』の図書館に挑む—大学図書館の未来と創造」，大正大学出版会，2023.

- ・大正大学公式サイト 学生の新しい学びに向けた取り組み（参照 2023.12.20）
https://www.tais.ac.jp/library_lab/library/learning/

- ・図書館総合展 大正大学ページ（参照 2023.12.20）
<https://www.libraryfair.jp/booth/2023/193>

- ・台北市立図書館（参照 2024.1.17）
<https://tpml.gov.taipei/Default.aspx>
<https://japanese.tpml.gov.taipei/Default.aspx>（日本語版サイト）

- ・国立台湾図書館（参照 2024.1.17）
<https://www.ntl.edu.tw/mp.asp?mp=1>
<https://www.ntl.edu.tw/mp.asp?mp=3333>（日本語版サイト）

- ・桃園市立図書館（参照 2024.1.10）
<https://www.typl.gov.tw/ja>
- ・台湾観光庁・台湾観光協会 桃園に美しい図書館が誕生！（参照 2024.1.21）
<https://go-taiwan.net/ikutabi/archives/4304>
- ・桃園市政府民生局 人口統計（参照 2024.1.21）
https://cab.tycg.gov.tw/News_Content.aspx?n=7902&s=880198

- ・国立政治大学達賢図書館（参照 2024.1.10）
<https://dhl.lib.nccu.edu.tw/>
<https://www.lib.nccu.edu.tw/index.php>（政治大学図書館総合サイト）
<https://www.nccu.edu.tw/index.php>（政治大学英語版サイト）
<https://nccuadmission.nccu.edu.tw/>（政治大学留学生入試ウェブサイト）